

「京都を学ぶセミナー丹波編」第1回（開催報告）

平成30年5月21日
京都学・歴彩館
075-723-4835

平成28年度から開始した「丹波の文化資源」研究プロジェクトの成果を、分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【丹波編】」第1回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

■ 日 時 平成30年5月20日（日）13:30～16:00

■ 会 場 北部産業創造センター 2階多目的ホール
（綾部市青野町西馬場下33番地7）

■ 参加者数 40名

■ 内 容

講 演

（1） 京都府立大学文学部 教授 藤原 英城 氏
「名所案内記中川喜雲の誕生」

丹波国桑田郡に生まれた一人の男が名所案内記作者として誕生するまでの過程を彼の出自や内面にまで切り込んで探る。

（2） 福知山公立大学地域経営学部 教授 矢口 芳生 氏
「郡是と近代丹波の蚕糸業」

日本の近代化を支えた蚕糸業。殖産興業の象徴であった養蚕蚕糸業。その栄枯盛衰と未来へ向けた提言をおこなう。

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

京都の文化資源を発掘する研究プロジェクトの第2弾として平成28年度より推進してきた丹波編も研究の最終年度を迎えた。今年度は毎月1回のペースでセミナーを開催していく。新たな試みとして、今回は歴彩館を飛び出し綾部での開催となった。郷土の歴史や文化資源への関心から、綾部のほか、福知山、亀岡、舞鶴からの参加者を見た。真新しいホールにこだまする講師の声が郷土を愛する参加者の心に響き、丹波の文化資源は郷土の誇りであると再認識していただけたと確信している。

参加者からは「過去の蚕糸業と将来についてまとめることができた」等好評を得た。

